昇試第一部漢字課題　（三月二十二日締切）

A

鈴木静村書

隱几讀書寒入骨　開門落雪皓平階（楊誠斎）

几（き）に隱り書を読めば寒骨に入り、門を開き雪を落とせば皓（しろ）く階と平らかなり。

〝寒〟の水で磨墨、だが濃過ぎた感。急いではダメ。掛けて眺める。平々凡々で暢びに乏しい。**書**　最後にタテ画、この筆順がクセ。**寒**　この作タテタテから。**骨開門**　同一調、各自一工夫を。**落**　三画目右上がり過ぎ。**平**　末画左行の主筆、よりスッキリさせたい。**階**　偏〝隱〟と相違。

B

高橋香樹先生書

純羊毫短峰筆を使用。阜偏が二字あるので **隱** は草書を **階** は行書とした。**書** の長横画は軽やかに。**雪** この形は篆隷に見え明清の書家がよく使う。墨継ぎは、**骨** と二行目は **雪** で行いたいところだが、ここを見せ場とするため **皓** とした。

訳…机にもたれて読書するが、寒気は骨にまでも徹する。門を開いて積った雪を落せば白く階（きざはし）と同じ高さになった。

予告（四月二十二日締切）　**蘚痕帶露侵基石　山影分雲落硯池（馬臻）**

◆**注 意**　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

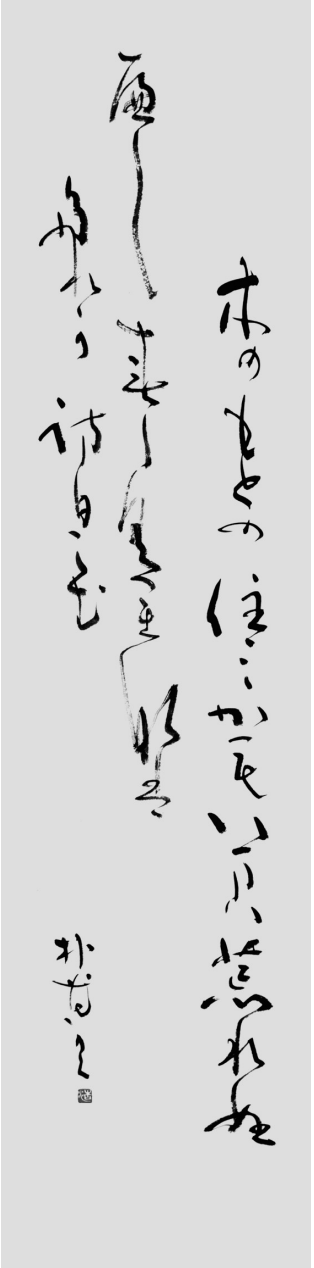
昇試第一部かな課題　（三月二十二日締切）

A

平岡華雪先生書

木のもとのすみかも今はあれぬべし春しくれなばたれか訪ひこん（新古今和歌集　大僧正行尊）
木の茂との春三かもい萬はあ連ぬへし春志久連なはた連か登日故ん

B



向山朴花先生書

木のもとの住三か毛い万八荒れ怒遍し春し具連那盤多れ可訪日こむ

行尊は、平安後期、天台宗の僧。幼きより出家。密教を学び、各地霊場で修行し、験力無双の高僧として朝廷の尊崇を受けた。歌壇的活動は多くないが、歌人との交流有り。修業時代の歌を集めた『行尊大僧正集』がある。

また、本歌（花山院）は、〈木のもとをすみかとすればおのづから花見る人となりぬべきかな〉である。百人一首の「もろともに…」は、名高い。

学び方

終句を紙面の上部で結ぶ散らし方です。一行目は、単体・連綿を用い、文字に大小・太細をつけてしっかり書き、二行目は、紙の三分の二位までにおさめて、渇筆でリズムよく連綿。三行目で墨を入れ、文字を小ぶりに引き締め、二行目に添わせます。左下に大きな余白を生み、落款を書き入れます。落款の位置と役割は大きいです。

仮名作品は、歌を理解して作品に向かい、美しい連綿効果を生み出す為に、変体仮名の流れと脈絡を整えます。さまざまな散らしの表現も優美な仮名作品に欠かせません。自らの感性を生かして、作品と取り組んで下さい。

◆通釈・木の下に住んでいた庵も、今は荒れてしまっただろう。春が暮れ、花も散ってしまえば、誰が訪ねてなど来るだろう。詞書は―修行し待りける頃、春の暮によみける―

予告（四月二十二日締切）　**うるはしき春野を過ぎてさわらびの萌ゆる山邊の藤浪をみつ（尾山篤二郎）**

◆**注意**　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試第二部漢字課題　（三月二十二日締切）

外川霞夕先生書

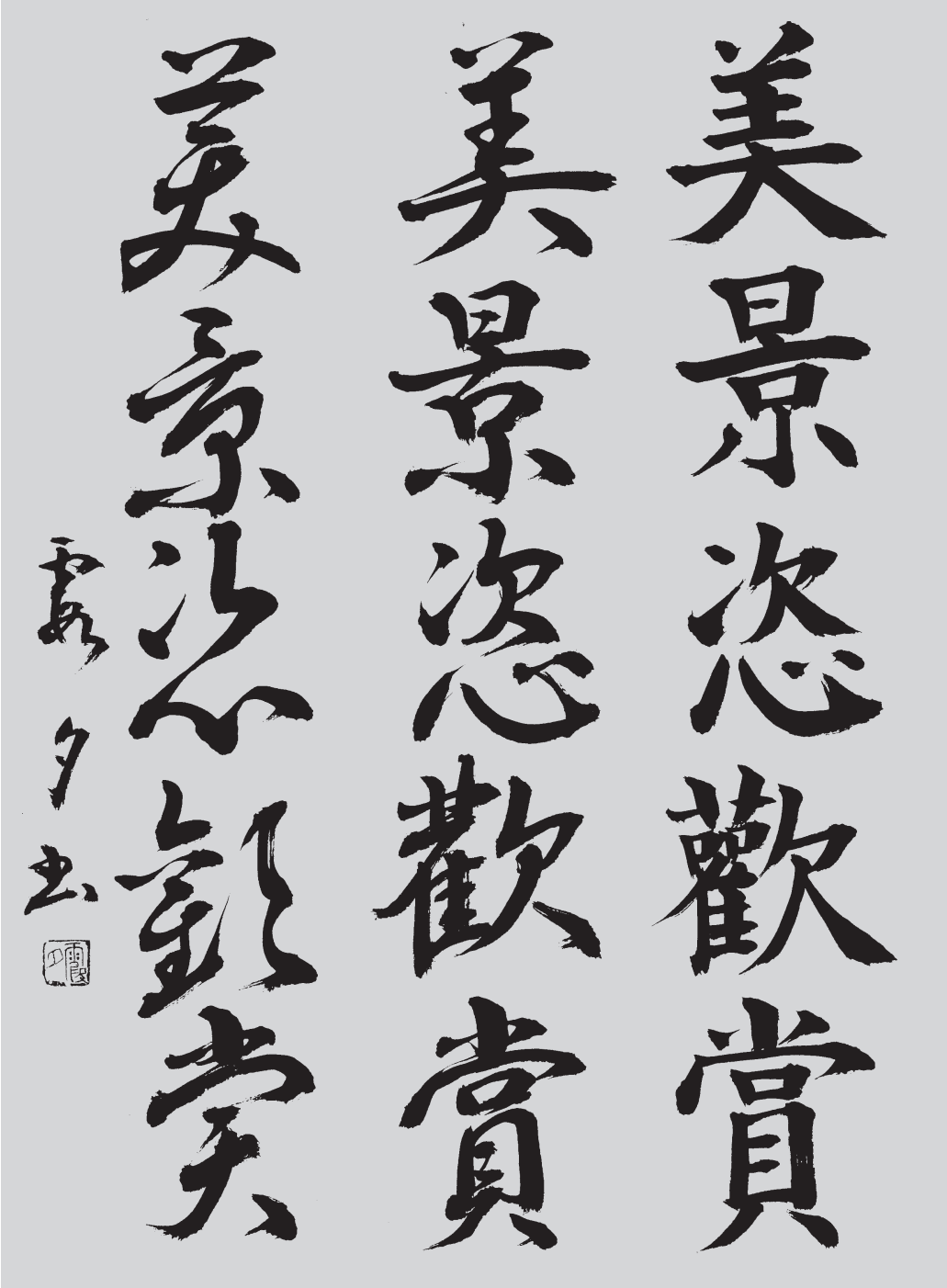
美景恣歡賞

美景恣歡賞

美景恣歡賞

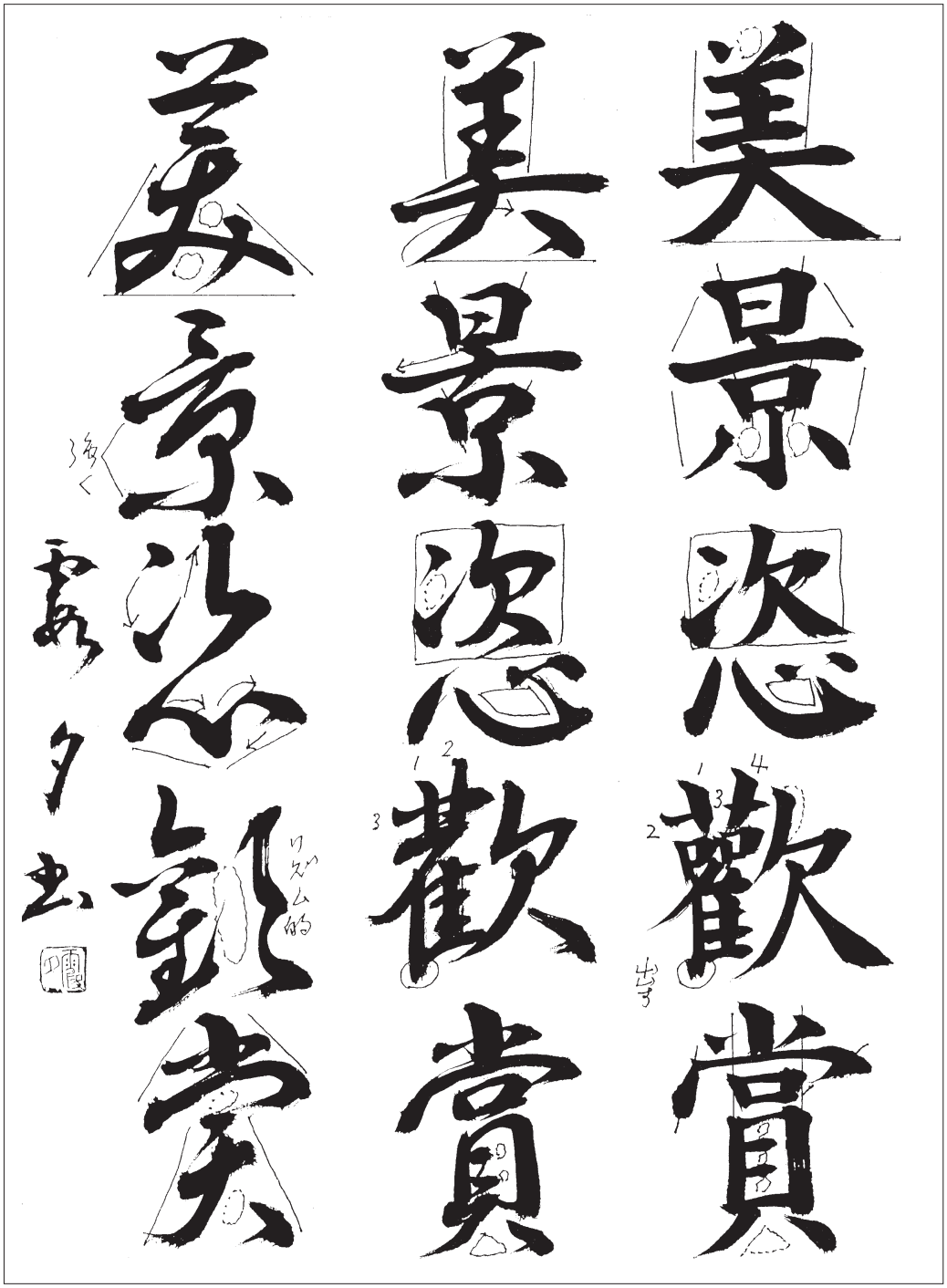
美景欽賞（びけいかんしょう）を恣（ほしいまま）にす。

訳…美しい春の景、見まわって心を十分にたのします。



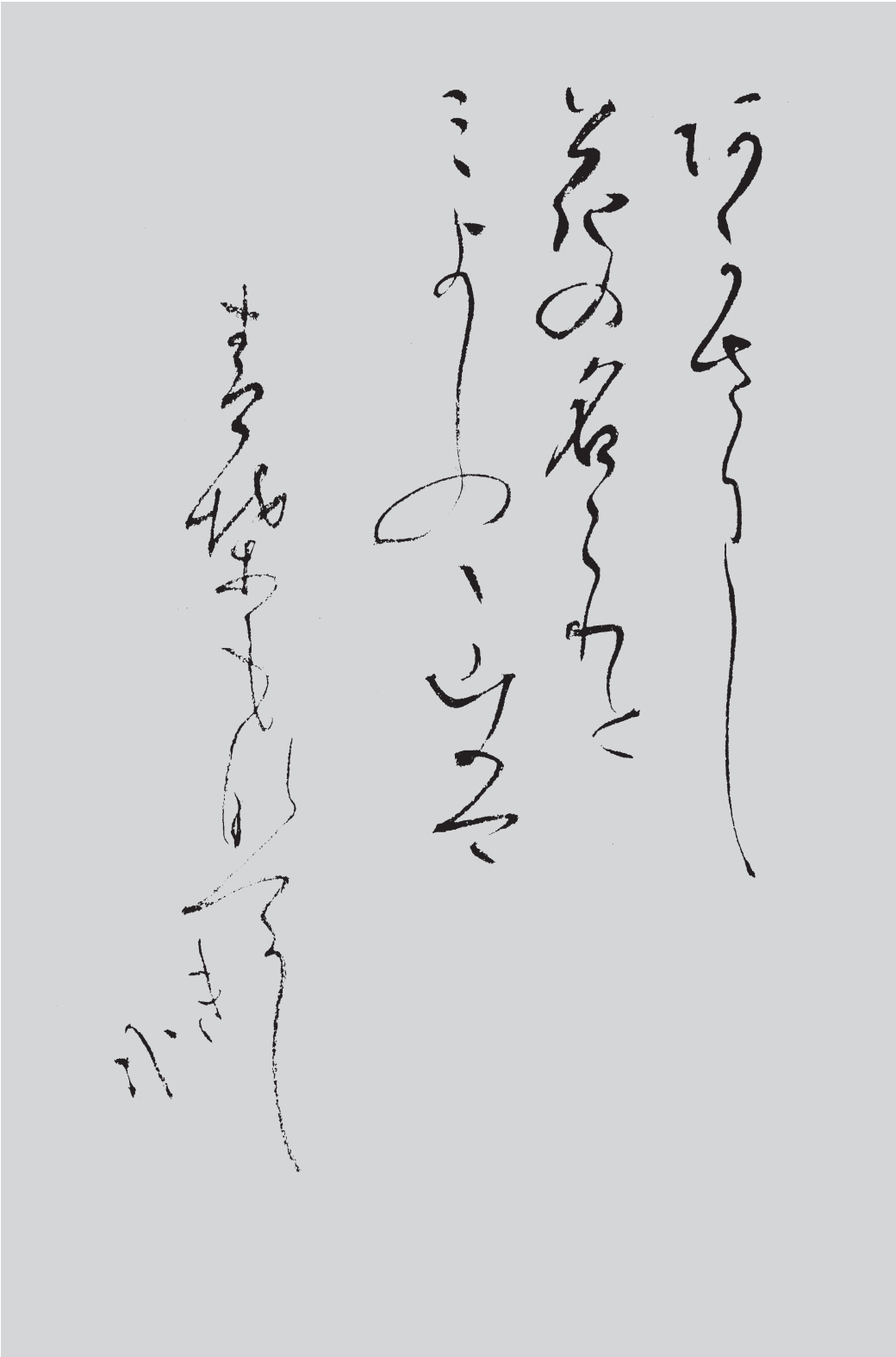
◆注 意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試第二部漢字課題　解説　鈴木静村



昇試第二部かな課題　（三月二十二日締切）

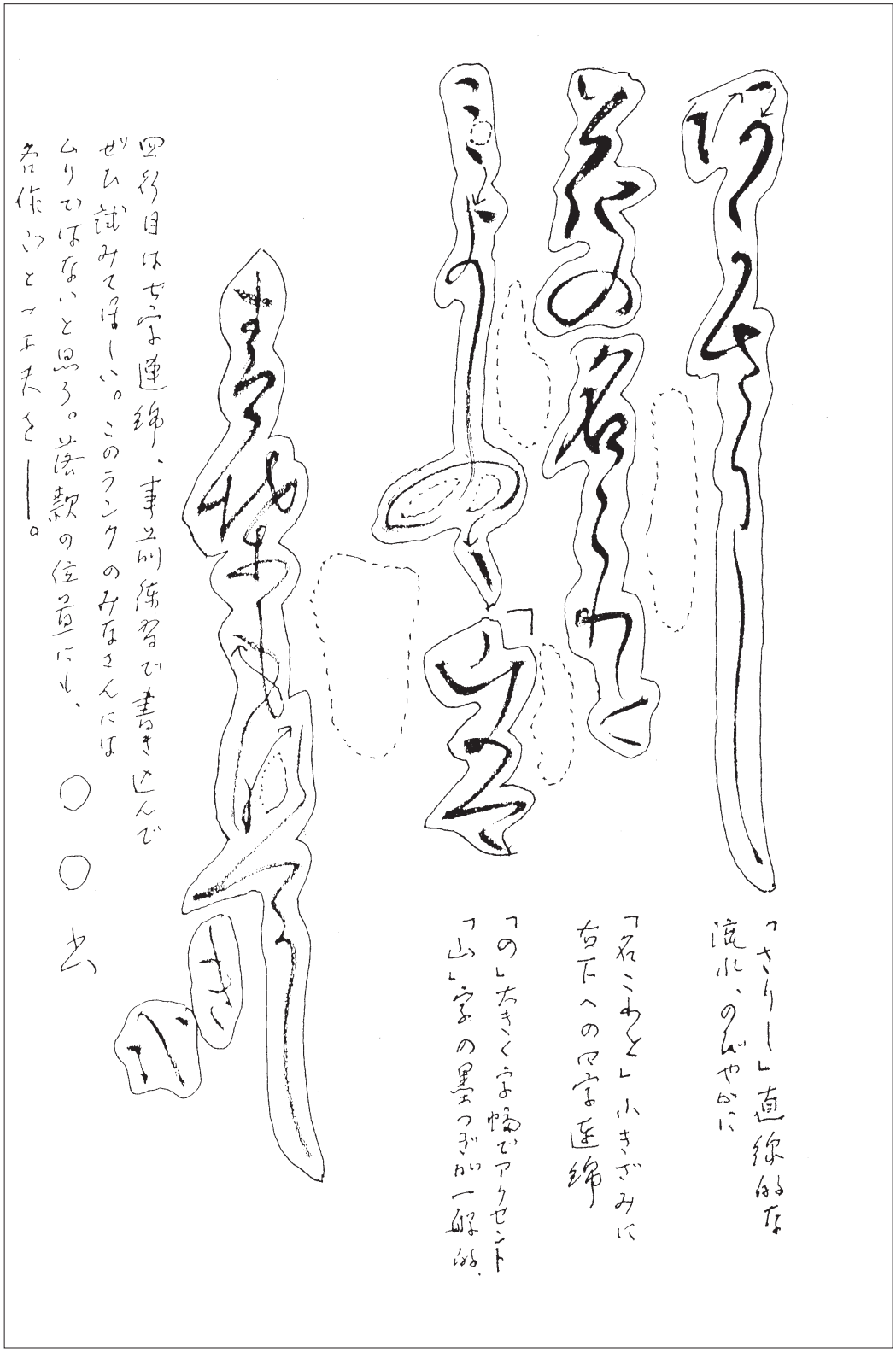
高塚竹堂先生書



あかざりし花の名残とみ吉野の山は青葉もなつかしきかな（本居宣長）

◆注意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

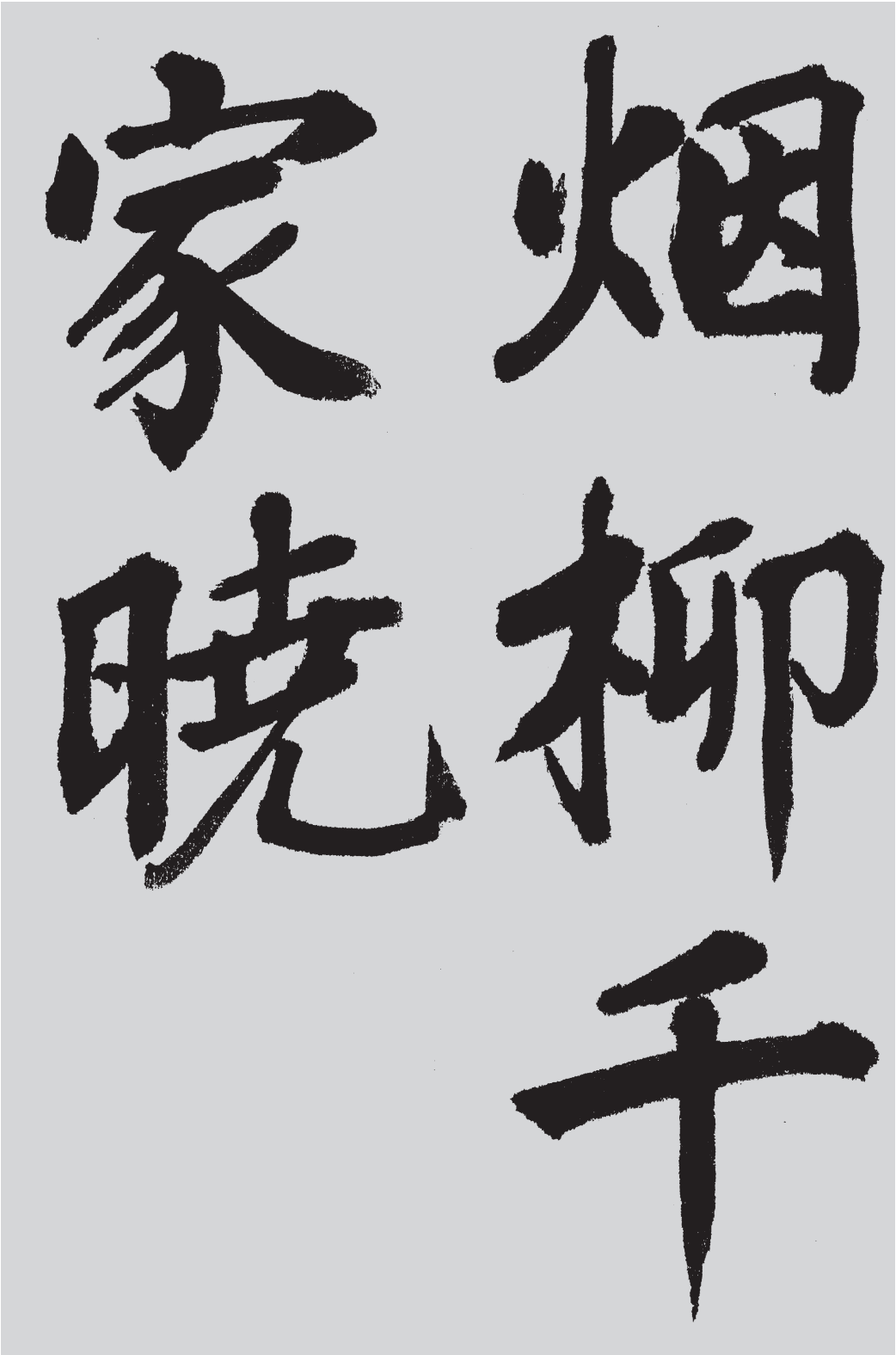
昇試第二部かな課題　解説　鈴木静村



昇試第三部漢字課題　（三月二十二日締切）

平岡華雪先生書

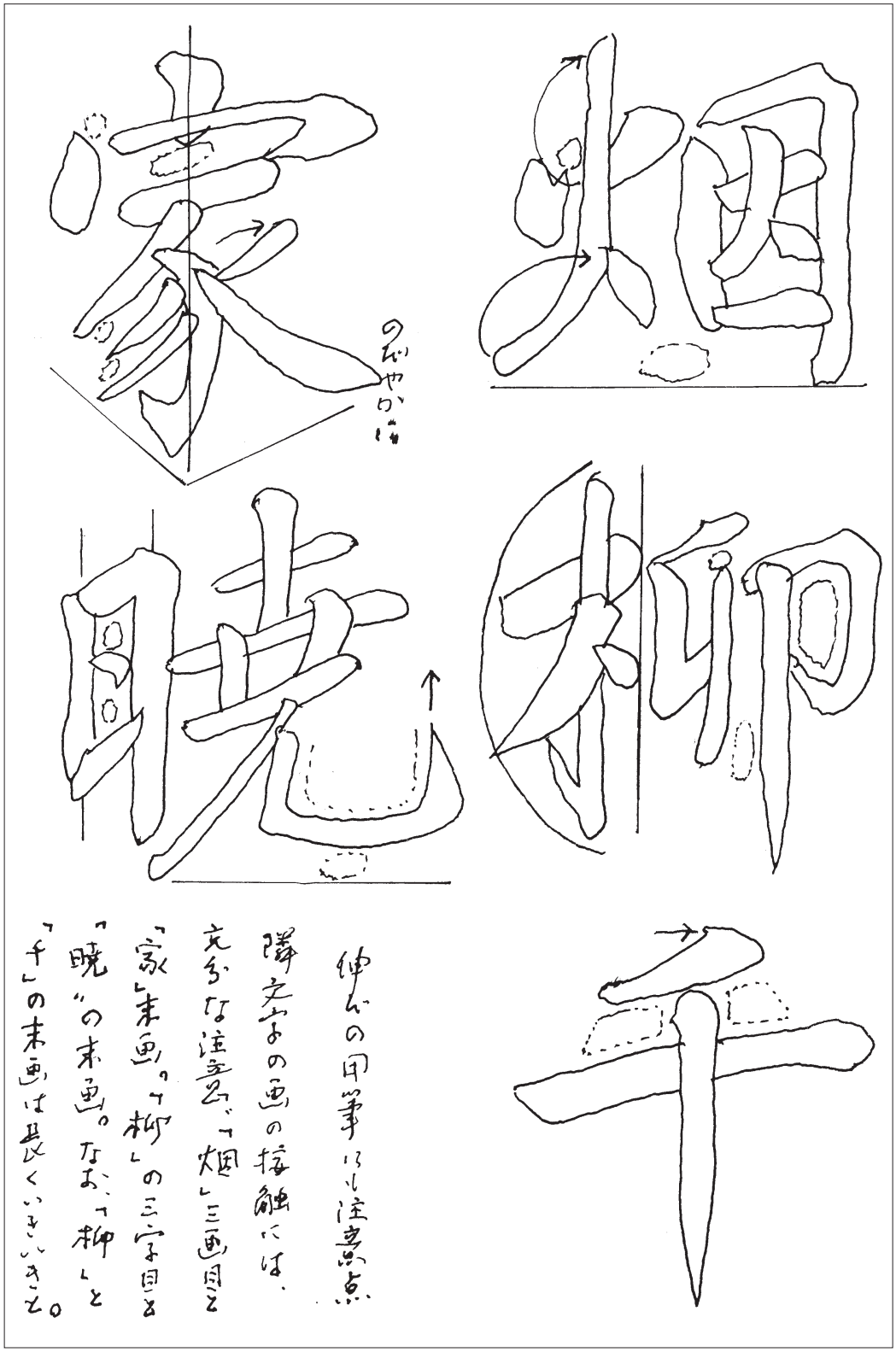
煙柳千家の暁（劉鐸）



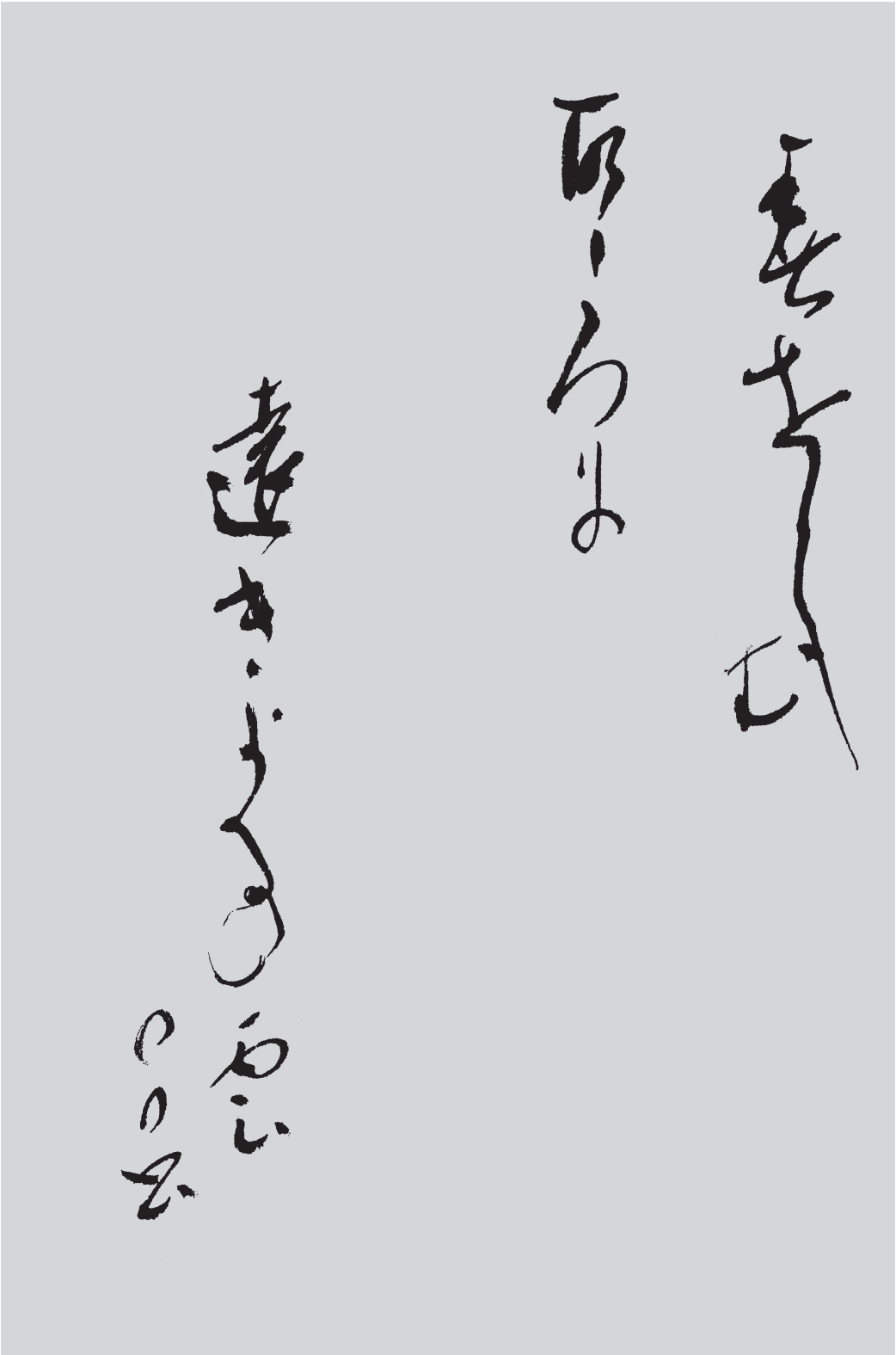
訳…朝の町には柳がけぶり、（みわたす限り春の花とそよ風）

◆注意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試第三部漢字課題　解説　鈴木静村



昇試第三部かな課題　（三月二十二日締切）

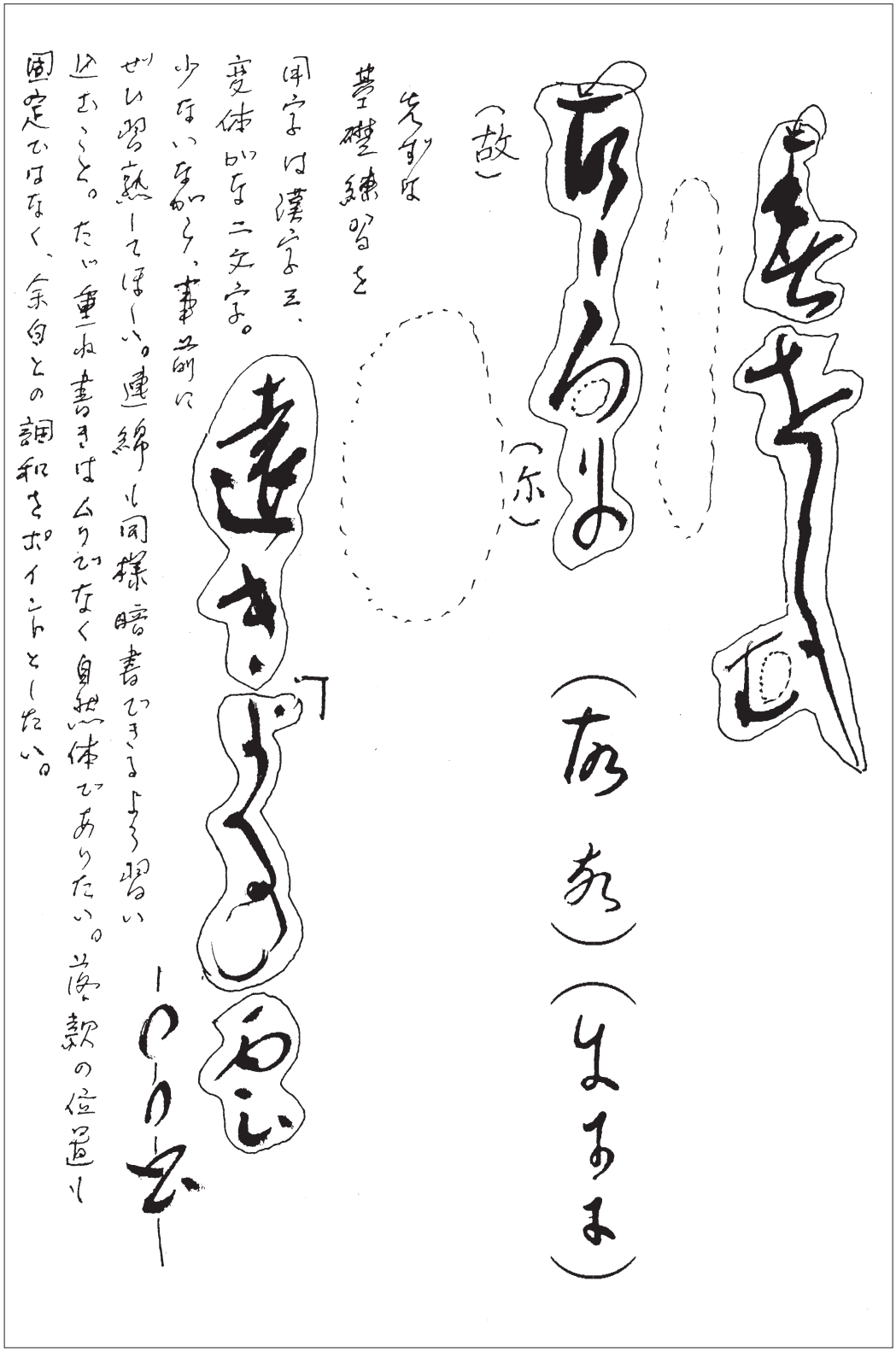


平岡華雪先生書

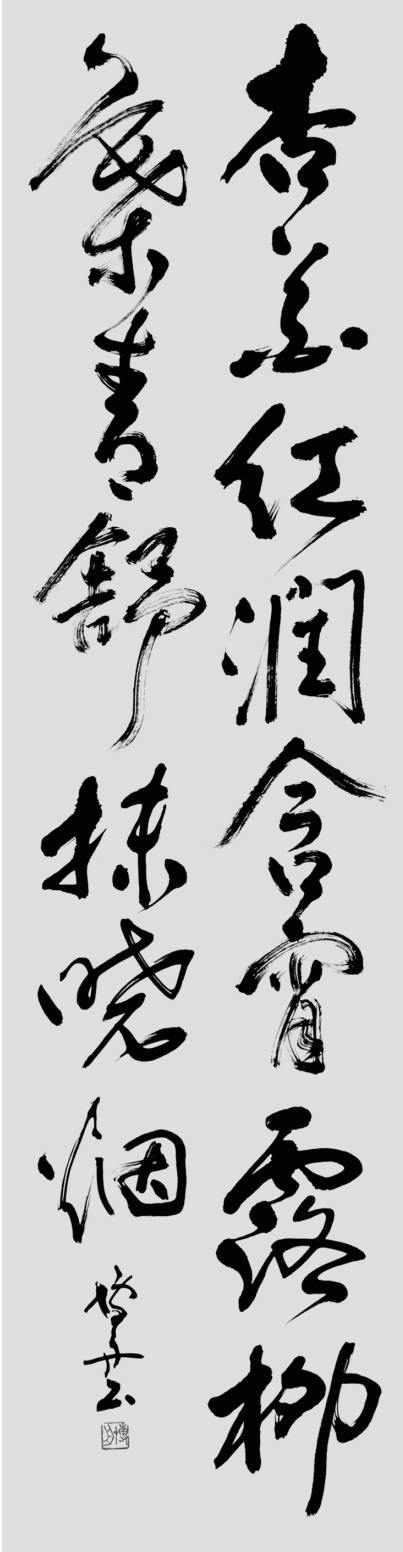
春をしむ心に遠き夜の雲（臼田亜浪）

◆注意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試第三部かな課題　解説　鈴木静村



北沢博舟先生書

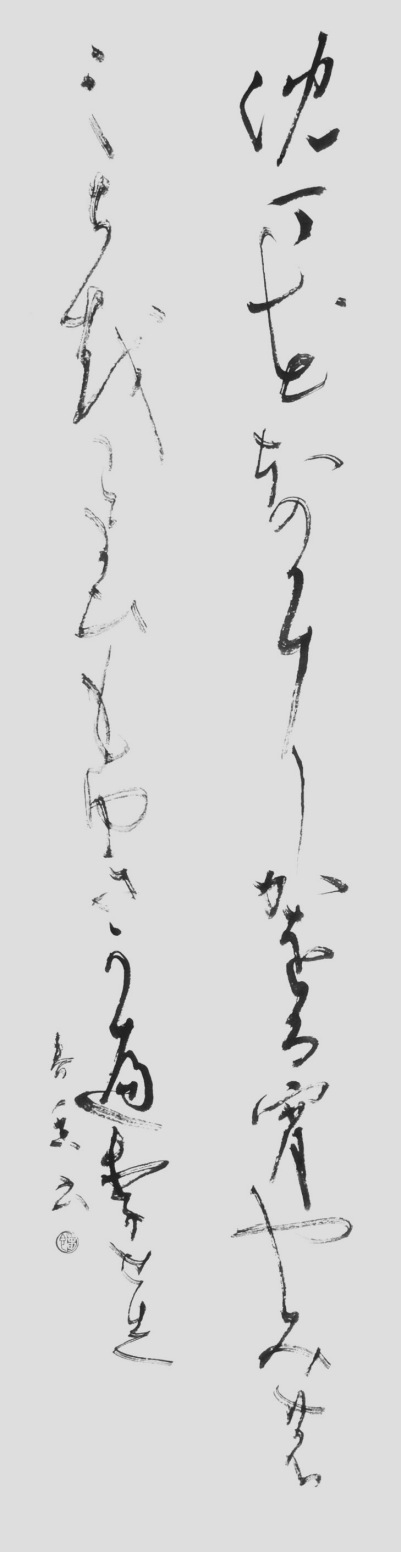


杏花紅潤含宵露　柳葉青舒抹曉烟

杏花紅は潤い宵露を含み、柳葉青は舒び曉烟を抹す。

訳…杏花は前夜の露にうるおって紅色美しく、柳葉の色は青々と夜明けのかすみをおびている。

石原春香先生書



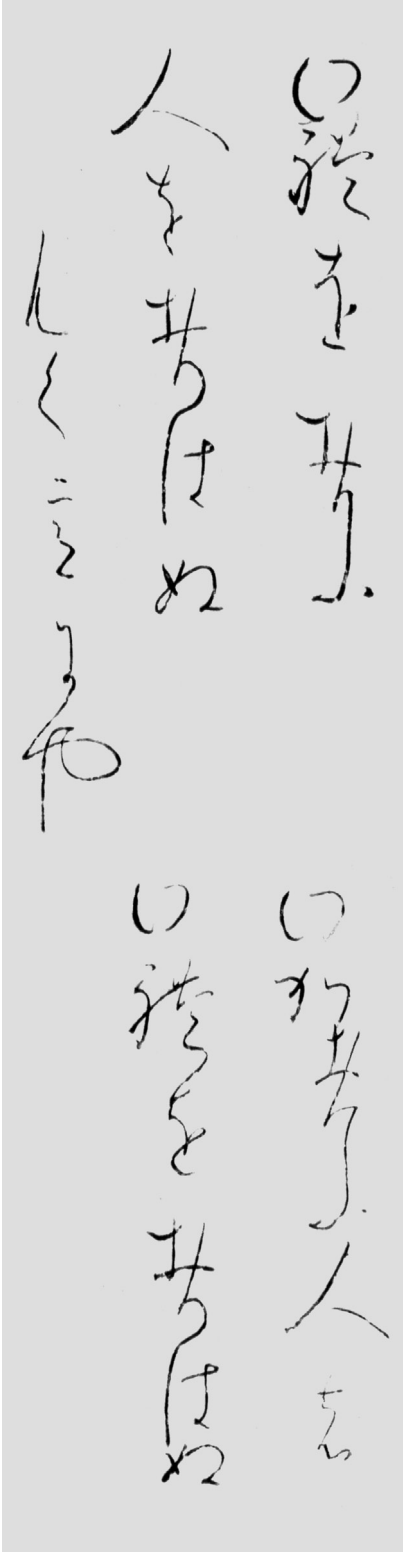
沈丁花ほのかにかをる宵やみの道を今夜もゆきかへりせし（佐佐木信綱）

沈丁花本の可耳かをる宵やみ農三ち越こよひもゆき可遍李せ志

◆注　意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

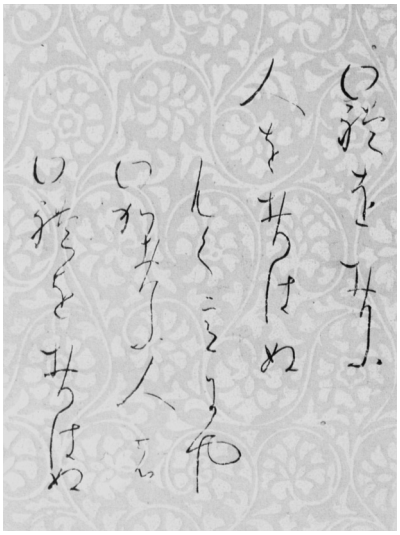
昇　試　随　意　参　考

宮　絢子先生担当　元永本古今集



われを思人をおもはぬむくひにや
我思人の我をおもはぬ

和禮をお无ふ人をお无はぬ无く意尓や
和加お无ふ人農和禮をお无はぬ



〈学び方〉

①散らしのすばらしさ

五行のまま色紙に収める勉強にもなりますが、半折に二段にしてみるのもよいと思います。下段に「○○臨」を入れると収まります。

②特殊な文字の使い方

われを　おもふ

ゐ＝わ（和）
ゐ＝も（无）

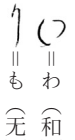
元永本古今集に見られる特殊な使い方です。

③小さな結び

「元永本」の持つ上品さをこの小さな結びがかもし出しています。

④単純なくり返し

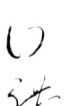
㋐（われ）　一行目



五行目

㋑

（おもはぬ）二行目

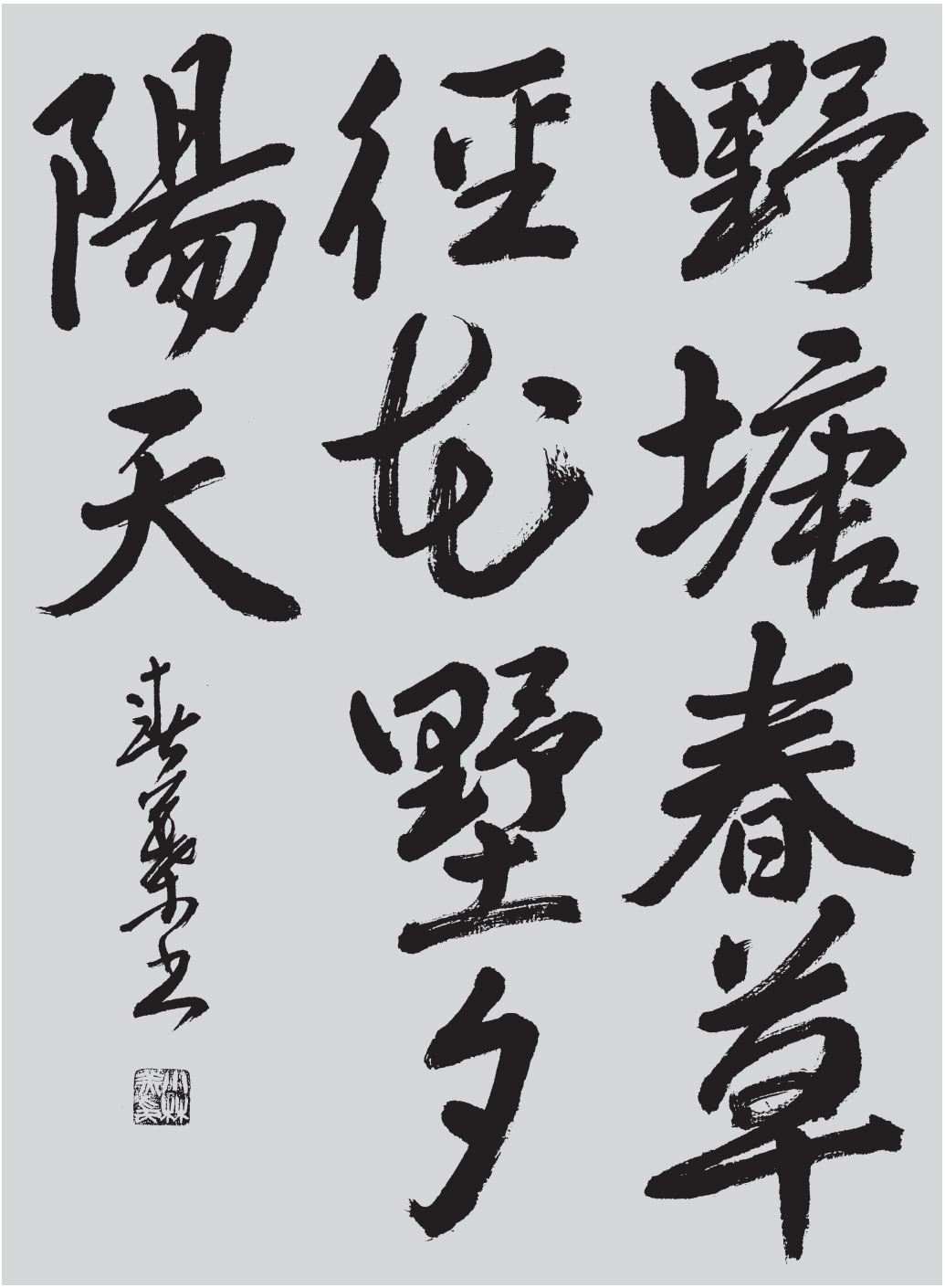


五行目

同じ言葉を同じに書く、即ち変化をつけないことで、全体が平穏な落ちつきを感じさせています。

◆注　意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

小林春葉先生書

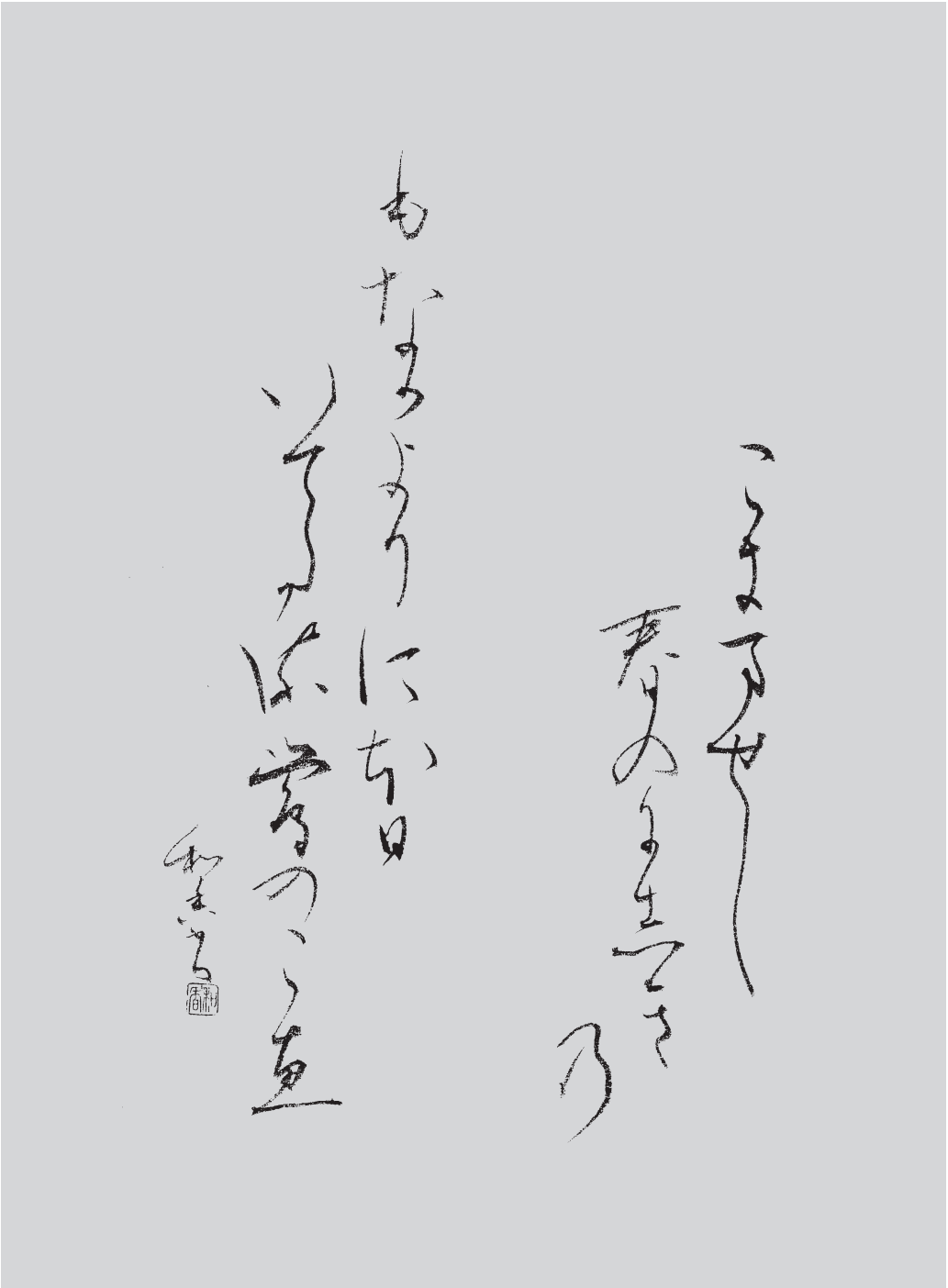


野塘春草徑　花墅夕陽天（梁清標）

野塘春草の徑（みち）、花墅夕陽（かしょせきよう）の天。

訳…野べの池塘には水みどりにこみちには春草が生じている。花ある別荘は夕日のためにひとしお眺めがよい。

◆**注　意**　裏表紙の昇試規定を参照のこと。



内田和香先生書

こきまぜし春の錦のもなかよりにほひいでたる鶯の声（太田垣蓮月）

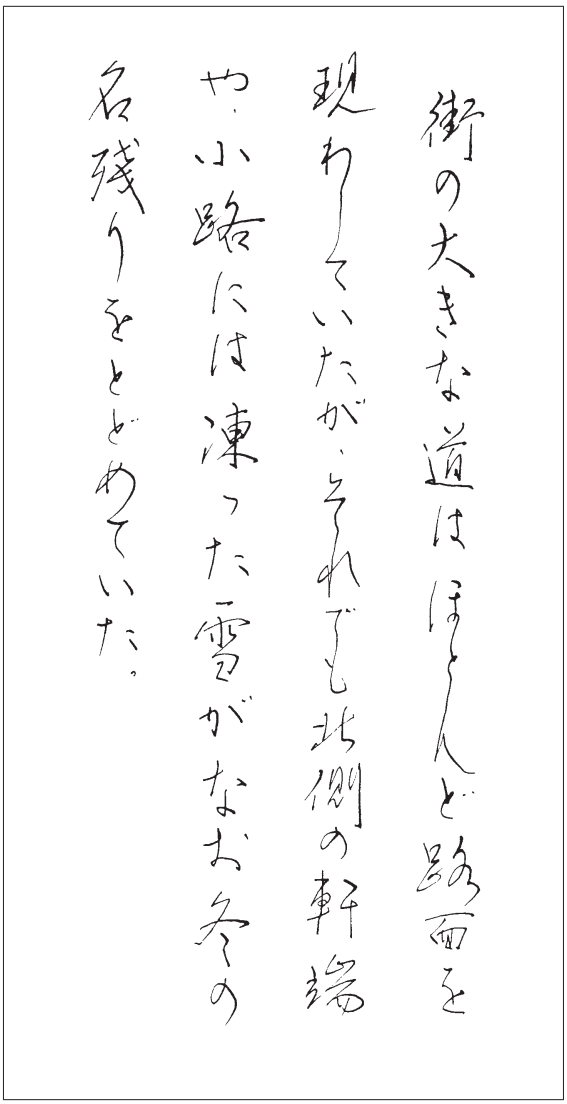
こ支万せし春の尓志き乃もな可よりに本日いて多流鶯のこ恵

◆注 意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

硬筆部課題参考　（三月二十二日締切）

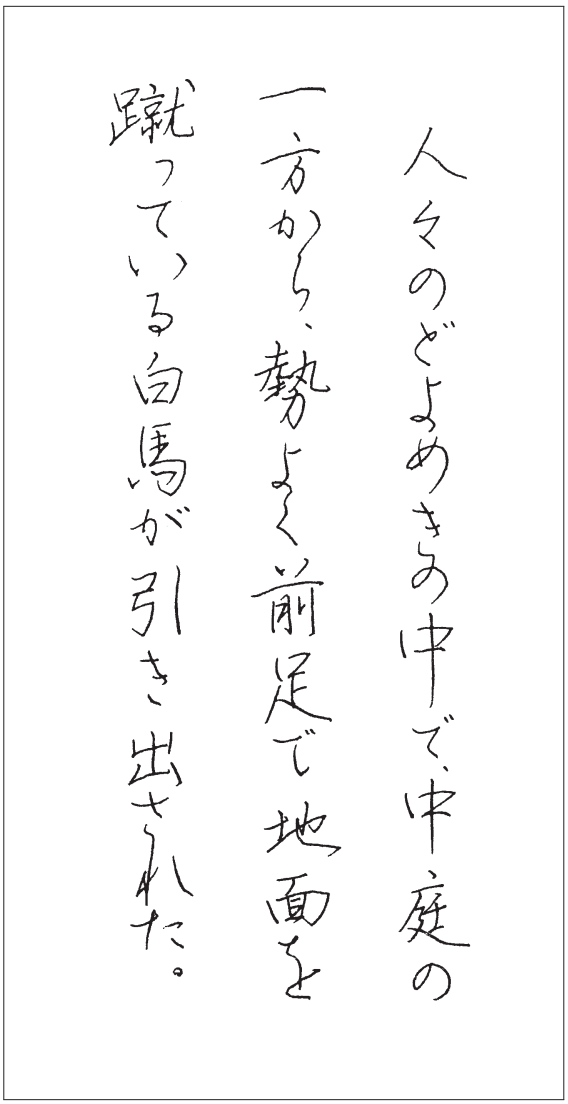
石原春香先生書

課題 1　（初段以上）



松浦江波先生書

課題 2　（初段格以下）



課題1（初段以上）

街の大きな道はほとんど路面を現わしていたが、それでも北側の軒端や、小路には凍った雪がなお冬の名残りをとどめていた。

「阿寒に果つ」　渡辺淳一

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。

(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。

(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）

(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新

(5) 会員は無料・会員外は四〇〇円

(6) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。（返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。）

課題1　六〇〇円

課題2　三〇〇円

課題1　石原春香先生　〒三七〇―〇〇八七　高崎市楽間町二二四ノ二一

課題2　松浦江波先生　〒二五二―〇二四三　相模原市緑区橋本六ノ四二ノ一九

課題2（初段格以下）

人々のどよめきの中で、中庭の一方から、勢よく前足で地面を蹴っている白馬が引き出された。

「風の音」辻　邦生